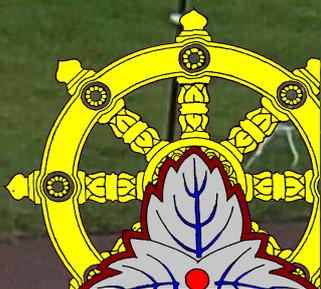
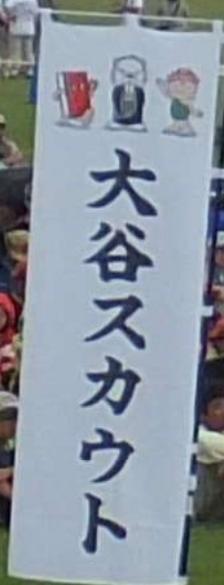


大谷スカウト通信

2013 秋



大谷スカウト連合協議会

2012 事業報告

7月2日	委員会（総会）
7月21日	指導要員チーム会議
9月29 - 30日	第2回東西スカウト合同研修会兼大谷スカウト指導者研修会
3月26 - 30日	第54回大谷スカウト名誉奉仕訓練
常任委員会	7月2日・7月3日・10月15日・12月17日・5月20日

第54回 大谷スカウト名誉奉仕訓練

団委員長 北 秀継（北海道教区委員長）

3月26日から30日まで、真宗本廟・同朋会館において「第54回大谷スカウト名誉奉仕訓練」（北秀継団委員長・品田千絵保隊長）が開催され、全国各地から24名のスカウトが参加しました。

この訓練は、仏教章の取得を目指すスカウトが、宗祖親鸞聖人の教えに学び、さまざまな悩みや課題に向き合うことを通して、大谷スカウトとしての自覚と自信を深めていくことを願いとして開催しているものです。

訓練期間中は、真宗門徒の生活を基本に、「宗祖伝」「釈尊伝」「真宗の教え」などの講義や勤行練習などの実習や京都市内の宗祖の御旧跡を巡る「名訓ハイク」など多彩なプログラムが行われました。

阿弥陀堂ご修復現場にも足を運んでいただき宗祖親鸞聖人が人々に与えた力の大きさを肌で感じていただきました。



阿弥陀堂ご修復現場見学（27日素屋根）



3日目には、講師に真城義麿氏（元京都大谷中高等学校長）を迎え、特別講義が行われました。「私が、何々する」という今までの生き方から「仏様が、この私に対して、存在そのものを肯定する」という180度転換している生き方が示されました。その講義を踏まえて各班において座談が行われ、その後の「名訓フォーラム」において、様々な視点からの発表が行われました。

4日目の最終日の夜に行われた「名訓大營」では、室内営火のあり方を模索しながら「名訓としての営火」を行いました。「釈尊伝」「宗祖伝」の逸話を寸劇にして追体験する各班の発表やスカウト独特の振り付けソングで楽しみました。また、今回は東日本大震災 NHK テーマソング「花は咲く」で盛り上がりました。

この研修を通して、高校生年代のスカウトは大きな感動を得たように思います。宗祖のみ教えを心のより処にして、各地で活躍してもらいたいと願っています。



2013 年度 仏教章取得者

2013年7月1日～2014年6月31日 交付順 4名



教 区	氏 名	団 名	教 区	氏 名	団 名
東 京	山口 卓巳	葛飾第 2 団	岡 崎	小林 維	岡崎第 10 団
〃	山田 功大	中野第 8 団	〃	加藤 旭	岡崎第 3 団
〃	吉田 隆史	江東第 5 団	〃	中川 卓也	西尾第 10 団
〃	小倉 知樹	中野第 8 団	長 崎	橋本 晴佳	長崎第 9 団
〃	藤本 哲平	北第 5 団	東 京	南部慶一郎	江東第 5 団
〃	丸山 拓也	台東第 5 団	名古屋	中村健一郎	半田第 3 団
〃	田邊 聖尚	中野第 8 団	三 重	田中 智子	亀山第 4 団
〃	甲斐龍之介	足立第 8 団	大 阪	笠原 一晃	松原第 1 団
〃	武田 康志	柏第 1 団	〃	笠原 嘉晃	〃
〃	島村未菜子	江戸川第 5 団	岐 阜	柳瀬真理亜	大垣第 7 団
金 沢	末井 慧見	金沢第 1 団	岡 崎	村松 咲歩	西尾第 5 団
福 井	松田 拓郎	鯖江第 2 団	〃	加藤 七海	〃
		大阪第 11 団	〃	宇野 翔美	〃
東 京	深澤 祐也	水戸第 2 団	〃	杉浦 哲平	西尾第 1 団
〃	島根 高啓	水戸第 4 団	〃	市川 達也	西尾第 5 団
〃	青木 美德	柏第 1 団	名古屋	浅井友梨恵	一宮第 5 団
〃	鈴木 峻太	荒川第 1 団	岡 崎	島津 恵一	豊田第 9 団
〃	森 一海	杉並第 6 団	東 京	森田 初音	水戸第 4 団
〃	堀 秀慈	台東第 4 団	大 阪	前河 伸弥	香芝第 1 団
〃	蟹井 鉄吉	北第 5 団	東 京	長島 勇輝	柏第 1 団
〃	田口 悠平	〃	岡 崎	有馬 奈歩	岡崎第 13 団
〃	齊藤 智哉	水戸第 4 団	名古屋	神戸 雄太	半田第 1 団

真宗本廟一泊奉仕団

“継続と感謝と今後の飛躍の機会にしよう。”

期 日 2013年3月16日(土)～17日(日)

真宗大谷派名古屋別院スカウト育成会が、昭和38年に発足して、50周年という大きな節目を迎えるに当たり、記念になる行事を実施したいというのが、実行委員会メンバーの気持ちであった。

当初は、あれもこれも盛大に実施したいと欲張って企画をしたが、いざ実行段階が近づくと、色々な企画が少しずつ縮小していくのに、とても寂しさを感じていた。どうしても、スカウトを含めた団家族全員で、心に残る行事がしたかった。そこで、本廟奉仕だけは、是が非でも実施したかった訳である。

この本廟奉仕を実施するに当たり、ご担当の研修部阪さん、教導の糟谷先生、補導の中川さん、足利さん、梅溪さん、早崎さん、本当に皆さんでこの行事を非常に楽しく意義深いものにして頂いた事に対し深く感謝申し上げたい。

正直言って、初めて体験する私にとってどんなものかが分かっていなかった。食事

にしても、絶対に精進料理が出されるものと思っていたが、最初に鳥の空揚げが出て非常に驚いた。味的には美味しく奉仕団参加者に食事のストレスを感じさせない為の配慮を感じた。

奉仕期間内のどの行事についても、それぞれの年代に応じた親切な展開と気遣いが感じられ本当に有難いものであった。

糟谷先生には、BPの願い・大谷スカウトの歴史・親鸞聖人のメッセージ等ためになる講義をお聞かせ頂けた。また、両堂参拝・諸殿拝観は普段見る事の出来ないご修復の現場視察など意義深いものがあった。

あつという間の1泊2日であったがとても思い出深い50周年の記念になる行事とすることが出来、今後の団の飛躍の契機になったと思う。

鬼頭団委員長以下全員が10年後にも必ず本廟奉仕に来る事を心に誓い本廟を後にした。会館の教導補導の皆様にも御礼。

実行委員 ビーバー隊長 横澤 浩



～ ～ ～ ～ ～ ～ ～

私は人生の過去を思い返し、今を見つめ直し未来を描く事が出来た様に思います。

様々な問題が顕在化する中、仏教精神に立ち返り、自分を鑑みる事からどのように生きていくのが良いのでしょうか。また、信仰心は心の支えになり、真のボーイスカウトへの一歩になると思いました。

ベンチャー隊 鈴村美月

報告 東京教区ボーイスカウト奉仕団

真宗本廟で伝統の仏教章講習会”

期 日 2013年8月25日(日)～27日(火)

東京教区大谷スカウト連合協議会では、毎年仏教章講習会を開催しています。大谷スカウトの団だけではなく、東京連盟の理事会を通して各地区へ受講を呼びかけますので、毎年ベンチャースカウトが10～15名参加します。毎年4月から9月まで、月1回講習会をもち、仏教章授与項目のすべてを学習し、8月末にはまとめとして、京都東本願寺同朋会館で2泊3日の本廟奉仕団に参加することを必須としています。

この同朋会館での宿泊研修は、高校生にとって今まで経験したことのない体験で、大変印象が強いようです。

東京教区の仏教章講習会の歴史は古く、

昭和41年に第1回が行われ、本年で45回を迎えました。その間、約650人に近いベンチャースカウトが本廟奉仕団に参加し、仏教章を授与されています。

最初の頃に参加したスカウトも今では50歳代、60歳代です。各団の指導者として活躍している人も多く、また数名の方が東京教区における仏教章講習会のスタッフとしてスカウトの指導にあたっています。まさに、継続は力なりという事です。少しでも、多くの高校生に親鸞聖人の教えに出遇っていただきたく、これからも仏教章講習会を続けていきたいと思ひます。

(東京教区委員長 堀 秀之)





大谷スカウトのつどい

7月31日(水)から8月8日(木)までの9日間にわたって、第16回日本ジャンボリーが山口県きらら浜で開催され、第30回アジア太平洋地域ジャンボリーを兼ねたことで、参加者1万4千人の国際色豊かな大会となりました。



8月4日(日)午前8時30分から18教宗派毎に「つどい」が開催され「大谷スカウトのつどい」は、木越渉真宗大谷派参務(青少幼年センター長)、木曾修山陽教務所長のご臨席をいただいて、アリーナ南側の特設会場にご本尊を安置し大会期間前半の4日間に「信仰奨励エリア」で開設した「当派ブース」に訪問いただいた参加スカウトの手形で染付した水引で前卓を荘厳して「つどい」を開始しました。



石神大谷スカウト連合協議会委員長の「開会のことば」に続いて、スカウト代表による「供灯・供花」。木越参務が導師をつとめて全員で「三帰依」を唱和。木越参務「挨拶」の後、堀秀之前協議会委員長の「ご法話」があり、親鸞聖人の教えの一端が参加者に優しい言葉で語られました。その後、木曾教務所長の「祝辞」。そして、前回開催の15NJから2012年度までの間に仏教章を取得し、本ジャンボリーに参加して、このつどいに駆けつけてくれた11名のスカウトに「仏教章の伝達」を行い顕彰しました。参加スカウトを代表して柴田泰雅君(岡崎第3団)が「大谷スカウト宣言」行い、井上副委員長から「閉会のことば」が述べられました。最後に全員で『スカウト大谷』を歌って「つどい」を閉会しました。



小雨が降る中にも関わらず、約1千人の大谷スカウトに集まっていた大変意義深いつどいとなりました。参加者には、大会前に記念チーフリングが贈られ、当日参加者には記念のシールを配布しました。



第16回 日本ジャンボリー 信仰奨励エリア

山口県きらら万博記念公園内



今回のジャンボリーでは、会場内に「信仰奨励エリア」が設けられました。大会本部から、各教宗派に礼拝と教導職のお話を聞くことができ、各教宗派の内容を広報する施設（ブース）として2間×3間のテント1張の割り当てがあり、各教宗派がその運営に当りました。

同一エリアに 17 教宗派が会する光景は誰の目にも“世界にここだけ！”と映りました。スカウトには、自らの信仰心について考え、他の信仰について知るなど、互いの違いを認め合い自らの信仰心を確認するエリアとなりました。

大谷派のブースへは、開設した6日間で 331 名のスカウトが訪問してくれました。

連日の酷暑の中、ブース開設と運営。さらに「大谷スカウトのつどい」の開催にご尽力いただいた「指導要員チーム」のみなさんご協力いただいた「教導職」の方々には、本当にありがとうございました。感謝申し上げます。



● 信仰奨励エリアにブース設営と運営に協力した教宗派。

神社本庁 天台宗 浄土宗 浄土真宗本願寺派 真宗大谷派 高野山真言宗 曹洞宗
日蓮宗 立正佼成会 孝道教団 日本聖公会 日本カトリック教会 日本基督教団
末日聖徒イエス・キリスト教会 金光教 世界救世教 天理教 以上17教宗派

近所の教宗派ブース紹介



神社本庁



日蓮宗



世界救世教



末日聖徒イエス・キリスト教会



日本カトリック教会



浄土宗

2013 事業計画

7月1日	委員会（総会）
8月4日	第16回日本ジャンボリー大谷スカウトのつどい
10月6日	指導者要員チーム会議
3月1-2日	第24回大谷スカウトリーダー研修会
3月26-30日	第55回大谷スカウト名誉奉仕訓練
常任委員会	7月1日・7月2日・10月7日・12月16日

第24回大谷スカウトリーダー研修会

●開催趣旨

み仏に遇い得た喜びを、未来社会を築く子どもたちのために…。

●テーマ「大谷スカウトの営火研究」

●期間

2014年3月1日（土）から2日（日）まで

●会場：京都教務所

●募集人数：40名



第55回大谷スカウト名誉奉仕訓練

●開催趣旨

親鸞聖人のみ教えに学び、ともに大谷スカウトとしての自覚と自信を深める。

●期間

2014年3月26日（水）から30日（日）まで

●会場：東本願寺同朋会館

●講師：真城 義磨氏（元大谷中高等学校長）

●募集人数：48名（BS 36名・GS 12名）

●団委員長：北 秀継氏（札幌第4団）

毎年3月26～30日開催

募集 **大谷スカウト名誉奉仕訓練**

東本願寺同朋会館

編集後記

16NJ 宗教部庶務班長を拝命した。ISTとJDTの顔合わせの場で、配属先の伝達が終わった後に「私たちはどうしたらいいのですか〜？」と手が挙がった。VC-ISTの8人である。「んっ？」事前には聞いていなかったが…？宗教部のデスクで午後からの作業指示をした。その日の業務を終えてVC-IST本部に戻った彼らは、自分たちが必要とされていなかったこと（人の顔色は読み取れるようだ）仕事の内容が各教宗派のブーステントの設営（24張）というハードな作業であったことが気に食わなかったらしく、その「不満」が次の日の朝、私の耳に届いた。彼らは決して若くはないエリアスタッフを見捨てて何がしたかったのだろうか。そのあたりの真意が知りたくて、業務最終日に感想文を書いてもらった。「不満」は「感謝」に変わっていた。庶務の業務として年の差を埋める事が出来たと思っていた。

しかし、後半のVC-ISTたちが休憩していたテントの傍を通った時に「大人は誰も信じられないのだから、私たちがスカウトの声を聞いてあげなければならない」といった会話を聞いた。スカウトの指導者には衝撃的な言葉である。でも、感想文は多くのスカウトに出逢えた喜びと宗教部への感謝で綴られていた。私には感想文が上滑りなものに感じた。信頼関係のないまま指導者を続けること程辛いものはない、あれは酷暑による私の「空耳」だったのだろう。（大橋）

JDT:ジャンボリー・デリバリー・チーム IST:国際サービス・チーム VC-IST:ベンチャースカウト・国際サービス・チーム

●発行日：2013年11月1日 ●発行：大谷スカウト連合協議会 <http://homepage2.nifty.com/tanisco/> FAX075-351-9599

●事務局：〒600-8168 京都市下京区室町通り六条下ル八百屋町273 真宗大谷派青少年センター スカウト係 ☎075-354-3440